

## 2.2.1.結婚式における IT 活用の現状と趨勢

橋本 雄太

### はじめに

デジタル技術を駆使してビジネスプロセスや生活形態を変革することを指す「DX (Digital Transformation)」という言葉が普及して久しい。DX はブライダル業界においても進みつつあり、結婚式のあり方に少なからず影響を及ぼしている。特にコロナ禍を通じてブライダル業界における DX は急速に進行しつつあり、挙式や披露宴をインターネット配信する「オンライン結婚式」まで登場するようになった。

本稿では、こうした DX 推進を通じて登場しつつある新しい結婚式のあり方について、統計資料と具体的事例から現状と今後の趨勢についてまとめる。

### 結婚式における IT 活用の形態

#### オンライン結婚式

「オンライン結婚式」とは、新郎新婦が式場や自宅から挙式や披露宴の様子を配信し、オンラインでゲストに参加してもらう結婚式の形態である。新型コロナウイルスの流行により対面の活動が厳しい制限を受ける中で、新しい形の結婚式として注目を受けるようになった。新郎新婦の挙式の模様を動画配信するものや、Zoom などのオンライン通話システムを利用して、ゲストと双方向でコミュニケーションをとるものなど、オンライン結婚式にはさまざまなパターンがある。コロナ禍において「3密」を避けることができ、主催者と参加者双方にとっても費用や準備、移動にかかる負担を抑えられるといったメリットがある一方で、対面の場合に比べてゲスト間でコミュニケーションをとることが難しく、一体感や臨場感に欠けるといったデメリットが指摘されている[1]。

リクルートがまとめた『ゼクシィ結婚トレンド調査 2022』[2]では、2022 年に首都圏で開催された結婚式 478 件のうち、およそ 11%がオンラインによる披露宴・ウエディングパーティーを実施したと報告されている。一方でオンライン結婚式を取り入れなかったカップルは、「招待客とは実際に会って一緒に過ごしたいから」(61.0%)、「特に必要性を感じなかったから」(33.9%) といった理由を挙げている。

#### オンラインでの事前打ち合わせ

結婚式の開催にはウエディングプランナーとの複数回にわたる事前打ち合わせを経ることが一般的であるが、この打ち合わせにもオンラインツールの利用が浸透しつつある。Zoom などのオンライン通話システムを利用して事前打ち合わせをおこなうことで、打ち合わせ場所まで出向くための時間や費用を節約でき、新郎新婦が別々の場所においても打ち合わせを実施できるといったメリットがある。一方で、結婚式会場の見学や招待状、ゲストブ

ックなどの現物確認には適していない。

上述のリクルートによる調査では、首都圏で結婚式を実施したカップル 311 組のうち、48.6%がオンラインによる打ち合わせを利用したと報告されている。なお筆者も 2022 年 4 月に結婚式を都内で挙げたが、準備にあたって複数回ウエディングプランナーとのオンライン打ち合わせをおこなった。

#### オンラインご祝儀

オンラインご祝儀とは、オンライン決済サービスを利用して結婚式ゲストから新郎新婦に贈られるご祝儀である。主に招待状とセットになっていることが多く、記載された QR コードやリンクを読み込むと、その場ですぐに支払うことができる事前決済が主流となっている。新郎新婦にとっては、結婚式当日に親類や友人にご祝儀を管理してもらう手間を省くことができ、また事前決済の場合は式前にお金を入手できるというメリットがある。またゲストにとっても、新札やご祝儀袋を用意する煩わしさを省略することができる。一方で、オンラインご祝儀には決済にともなう手数料やサービス料が必要であり、また高齢ゲストにとっては支払いが難しいといったデメリットもある[3]。

オンラインご祝儀サービスには、デジタルバード社が運営する marica (<https://www.onlineweddingcard.jp/maricaorder/>) などがある。結婚式の招待状をハガキで送付する代わりに、招待状機能をスマホやパソコンから閲覧可能な Web ページにまとめた「WEB 招待状」と呼ばれるサービスと組み合わせて利用されることが多いようである。

上述のリクルートによる調査によると、2022 年に首都圏で開催された 478 件の結婚式のうち、一部またはゲスト全員を対象にオンラインご祝儀を取り入れた結婚式は 1.6%とまだ少数にとどまっている。

#### VR 結婚式

オンライン結婚식을さらに進め、VR (virtual reality) 技術を応用した形態が「VR 結婚式」である。近年の VR 技術の進展は目覚ましく、Meta Quest 2 など高性能かつ安価な VR ヘッドセットが急速に普及しつつある。こうした VR ヘッドセットは平面のディスプレイと比較して没入感・臨場感において非常に優れており、特にゲーム用デバイスとして多数の人々に愛好されている。VR 結婚式は、この VR ヘッドセットを用いて遠方のゲストに結婚式に参加してもらう仕組みである。たとえば[4]では、グアムで挙式したカップルの結婚式に、東京ビッグサイトに集まった親族が VR ライブ中継で列席する事例が紹介されている。

VR 結婚式はまだ統計資料にも現れない非常に特異な形態の結婚式であるが、今後「メタバース」が普及することで一般化していく可能性もある。メタバースとは、コンピューター上に構築された 3 次元の仮想空間のことであり、ユーザーは上に挙げたような VR ヘッドセットを通じてメタバースに参加する。現実世界と同様に、メタバースのユーザーは其中で他のユーザーと交流し、社会生活を送ることができる。現在 Meta 社 (旧 Facebook) を

はじめとする巨大 IT 企業がメタバースの開発と研究に多大な資金を投じており、我々の社会生活の大部分がメタバース上の活動で代替される日も遠くないという観測もなされている。

日本国内で人気の高いメタバースの VRChat にて結婚式を挙げたカップルの事例がすでに報告されている[5]。新郎新婦も参列者もいずれもアバターの姿で式場に集い、式場からオーダーメイドの指輪、タキシードやウエディングドレスといった結婚式の諸要素がいずれも VR 空間上に再現されている (図 1)。



図 1 メタバース結婚式の模様(出典:[5])

おわりに

ここまで、結婚式における近年の IT 技術利用のあり方を統計と具体事例をもとにまとめた。結婚式において IT 技術利用の目的は、次のようにまとめることができる。

1. コロナ禍における対面接触を避ける方策として。
2. 対面活動にともなうさまざまな労力や費用を削減する手段として。
3. 時間的・場所的制約から離れてゲストの参加を可能にする手段として。
4. 現実世界では難しい新しい表現を実現する手段として。

オンライン結婚式やオンラインご祝儀は経済的合理性から見れば優れた選択肢として映るが、実際にはコロナ禍を経てもごく少数の普及に留まっている。その理由は、「一生に一回しかない結婚式をオンラインで済ませたくない」「対面で直接親族や友人に祝福してほしい」といった、結婚式の一回性や、対面での親密な人間関係を重視する価値観が多くの人にとってまだ普遍的だからであろう。

一方で、メタバースのようにオンライン空間上での人間関係が今後一般化し、人々の対人

関係についての価値観が変容した際に、結婚式の形態が大きく変化する可能性も否定できない。VR 結婚式やメタバース結婚式は、現時点では非常に特異な事例に過ぎないが、結婚式のあり方を考える上で注視しておくべき形態であると思われる。

#### 参考文献

- [1] マイナビウエディング, オンライン結婚式のデメリット、費用、プランを紹介!, [https://wedding.mynavi.jp/contents/special\\_contents/on-wed/#anchorlinkTab04](https://wedding.mynavi.jp/contents/special_contents/on-wed/#anchorlinkTab04)
- [2] 株式会社リクルート, ゼクシィ結婚トレンド調査 2022, 2022 年 10 月, [https://souken.zexy.net/data/trend2022/XY\\_MT22\\_report\\_06shutoken.pdf](https://souken.zexy.net/data/trend2022/XY_MT22_report_06shutoken.pdf).
- [3] マイナビウエディング, 「オンラインご祝儀」とは? コロナ禍の結婚式で注目のサービスを徹底解説 ~メリットやゲストの声を紹介~, <https://wedding.mynavi.jp/contents/press/detail/3-1/>
- [4] KDDI トビラ, 日本初の『VR 結婚式』 新郎新婦は海外ウエディングでも、親族は国内で祝う?, <https://time-space.kddi.com/kddi-now/kddi-news/20171030/2143>
- [5] メタカル最前線, 結婚式をメタバースでも メタバース結婚式を挙げた夫婦にインタビュー, <https://metacul-frontier.com/?p=2039>